



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年10月30日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

アイヌ力(ぢから)を信じて

30日(日)=1、3面

迫る



明治初期、北海道への移住者が増えたことを受け、政府は1899(明治32)年、現代では信じられない呼称ですが、アイヌを保護する名目で「北海道旧土人保護法」を制定しました。日本国民に同化させるのが目的で、アイヌの人々は文化や生活様式を侵害される

だけではなく、長い間、言われなき差別に苦しんできたのです。「アイヌ復権運動の先駆者」と呼ばれる宇梶静江さん(89)＝写真＝も、いじめや差別に苦しみ、出自を隠す生活を送ってきました。「内なるアイヌ」と向き合えない怒りが、宇梶さんを変えていき

ます。新聞に投書をしたり、アイヌ文化を取り入れた「古布絵(こふえ)」の世界を切り開いてきたりして民族の誇りを訴えてきました。今、「アイヌ力(ぢから)を」と訴える宇梶さんの心境に迫ります。

派閥の権力闘争はいかに

31日(月)=3面

銃撃事件で安倍晋三元首相を失った自民党最大派閥・安倍派は、安倍氏の後継会長が決まらず、混迷を深めています。「ポスト安倍」を巡り、何が起きているのか。現状を探ってみると、ある重鎮の存在が浮かび上がりました。

世界平和統一家庭連合(旧統一教会)問題の逆風を受ける同派のいまは。復活した名物企画「読む政治」

の第2弾のテーマは、最大派閥の権力闘争にスポットを当てます。



自民党安倍派の会合で発言する塩谷立会長代理(右)。左端は下村博文氏=同党本部で10月13日撮影



米中間選挙直前連載①

「選挙否定論者」の熱狂

米中間選挙(11月8日投票)まで約1週間。本来はバイデン政権(民主党)への審判となるはずの選挙ですが、トランプ前大統領の影響力が共和党内で影響

力を強めており、両氏を軸としたリベラル派と保守派による「文化戦争」の様相も呈しています。連載の1回目は、2020年の大統領選で「不正」があったと

11月1日(火) 1、3面

いうトランプ氏の根拠のない主張に同調する候補者がひしめく西部アリゾナ州の実情をルポします。

特集ワイド ママ友は難しいか

11月1日(火)=夕刊特集ワイド

福岡県の5歳男児が十分な食事を与えられず餓死した事件。1審判決によると、母親は「ママ友」に生活を支配されていたといい、育児期の母親特有の人間関係の難しさがあぶり出された形です。漫画家の又野尚さん

は「ワンオペ育児となれば、母親が社会とのつながりが認識できるのはママ友の世界だけ」と解説しています。では事件から学ぶべき教訓は何なのでしょう。又野さんら識者と一緒に「現代ママ友事情」を探りました。



竹橋の窓辺から

編集後記

毎日新聞の定期購読者なら追加料金なしでニュースサイトの有料記事が読み放題の「宅配購読者無料プラン」へのご登録はお済みですか? パソコンやスマホでいつでも読むことができ、「会員限定のお知らせ」を希望すると、主催する様々なオンラインイベントが無料で視聴できる案内メールが届きます。登録が済んでいない方はぜひ、QRコードからどうぞ。(渡部竜之介)



MAINICHI 新毎日

150 2022年2月21日 毎日新聞創刊150年